



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	アイヌ語鶴川方言テキスト(2) : 犬の思い出
Author(s)	岸本, 宜久; Kishimoto, Yoshihisa
Citation	北方言語研究, 15, 301-321
Issue Date	2025-03-20
DOI	https://doi.org/10.14943/112983
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/94628
Type	departmental bulletin paper
File Information	16_Kishimoto.pdf



[資料・研究ノート]

アイヌ語鵡川方言テキスト (2)
—犬の思い出¹—

岸 本 宜 久
(札幌学院大学)

キーワード：アイヌ語、鵡川方言、テキスト

1. はじめに

本稿では、アイヌ語鵡川方言の話者である吉村冬子氏から筆者が採録した吉村氏の飼い犬にかんする思い出の語り 4 編を紹介する。日本語を第一言語とする世代の継承語としてのアイヌ語の資料と位置づけられる。なお、付録としてテキストの音声資料を公開する。

1.1 本テキストの話者について

本テキストの話者である吉村冬子氏 (1926-2022) は、北海道胆振東部を流れる鵡川河口の村、チン (現むかわ町汐見) で生まれ育った女性である。アイヌ語と日本語のバイリンガルである両親と 17 歳までともに暮らし、両親のアイヌ語や、特に母親の交友関係の中でアイヌ語に深く接して育ったという。吉村氏の言語的背景と略歴については岸本 (2024) で紹介しているため、そちらを参照されたい。



写真 1 吉村冬子氏 (2014 年、筆者撮影)



図 1 チン (汐見) の位置

1.2 本テキストの採録と特徴

本稿の 4 編のテキストは、吉村氏が飼っていた小犬の思い出を語ったものである²。テキスト 1 は 2014 年 8 月 31 日 (第 55 回調査) に小犬の思い出をアイヌ語で語っていただいた

¹ タイトルは筆者が付けたものである。

² 押野千恵子氏 (吉村氏の長女) によると、この小犬はポメラニアンとのことである。

ものである。後日、筆者がそれをカタカナ表記のアイヌ語で書き起こし、2014年9月6日（第56回調査）に、その書き起こしたテキストを吉村氏に手渡して1行ずつアイヌ語の確認を行った。その際に吉村氏から言い誤りの修正や日本語で語った箇所の語りなおし、より詳しい語りの追加があったため、テキスト1とあらすじは同じだが、これをテキスト2として示す。特にテキスト2では、吉村氏と夫との会話や犬への語りかけなど、発話文を含むまとまった場面描写がアイヌ語で追加された。文脈のある語りの中で問かけや行為要求、願望などの発話文が直接引用のスタイルで得られた点は、アイヌ語での会話資料が得られにくい現状において貴重である。

テキスト3とテキスト4は2014年10月11日（第60回調査）に、あらためて小犬の思い出をうかがうなかで得られた語りである。テキスト3はテキスト1、テキスト2で語られた話の一部を語ったものであるが、テキスト間で異なる言い回しが得られた。例えば、元気のない小犬の様子を受けてテキスト1の(43)では「たまげた」と表現しようとしてアイヌ語が出てこなかったが、テキスト2の同箇所(76)では「iyokunure」（たまげた）とアイヌ語で語りなおしている。また、テキスト3の同箇所(12)では「inunukaski」（かわいそう）という表現を用いている点も興味深い。テキスト4は小犬についての別の思い出を語ったものである。いずれもむかわ町汐見の吉村氏宅で語っていただき、デジタルICレコーダーとデジタルビデオカメラによる記録を行った。

吉村氏による小犬の思い出話は、1998年2月に北海道北見市で開催された第1回アイヌ語弁論大会（イタカンロー）でも「クコロ ウパシクマ（若い人に伝える話）」としてアイヌ語で語られている。同大会ではこの話を含めて2編の思い出話をアイヌ語で語った吉村氏が最優秀賞を受賞している（アイヌ文化振興・研究推進機構1998）。「クコロ ウパシクマ（若い人に伝える話）」のあらすじは、本稿のテキスト1とおおむね重なるが、言い回しや場面描写などの粒度に異なりがあり、同一の話者による語りのバリエーションを比較できる資料として興味深い。例えば、テキスト1の(17)では、熊が吠えることを「hotuypa」（大声で呼ぶ）や「cis」（泣く）と表し、吉村氏自身もどのように表現すべきか苦心している。しかし、テキスト2の同箇所(8)では「wose」（ウォーという遠吠え）という語がより適切な表現であると修正している。イタカンローでの語りにおいても同箇所は「wose」と表わされており³、イタカンローで語った経験（語るために準備した経験）は、少なからずアイヌ語で「犬の思い出」を語る上での下敷きになっていると考えられる⁴。

2. 表記について

本稿のテキストは3行構成で示す。1行目はアイヌ語の音韻表記による原文、2行目はグロス、3行目は日本語訳である。アイヌ語の音韻表記は、服部（1964）で示されている音韻解釈に基づき/p, t, k, c, s, m, n, r, w, y, h, i, e, a, o, u/を用いて記した。ただし、声門閉鎖音を表

³ イタカンローでは、kamuy poro wose hawe ku=nu wa (<kamuy 熊、poro 大きい、wose ウォーという遠吠え、hawe 声、ku=nu 私が聞く、wa て)「熊の大きな吠える声を聞いて」と表現されている（アイヌ文化振興・研究推進機構1998：31、ローマ字表記への転写は筆者による）。

⁴ イタカンローのための語りの準備が、本稿のテキストにおける使用語彙や言い回しに大きな影響を与えている可能性については、査読者からの指摘を受けて追記した。ここに記して感謝申し上げる。

わす音素/ʌ/は、一部を除き表記を省略した。日本語での発話部分は訓令式のローマ字でつづり、斜体・下線を付して示している。なお、筆者（調査者）によるアイヌ語の発話部分は、吉村氏によるアイヌ語の発話部分と明確に区別するために、北海道ウタリ協会（1994）に準拠したアイヌ語カタカナ表記を用いて記している。日本語訳は暫定的なものであり、今後検討すべき問題も含んでいる。

3. アイヌ語鶴川方言テキスト：犬の思い出

3.1 犬の思い出（1）：犬を連れて山菜採りに行ったときの話

3.1.1 のテキスト 1 と 3.1.2 のテキスト 2 は同じあらすじのテキストである。テキスト 1 は吉村氏が通して語った小犬の思い出であり、テキスト 2 はテキスト 1 の書き起こしをもとに吉村氏がアイヌ語の表現を修正・追加したもので、調査を通じてテキスト 1 を更新したものである。3.1.3 のテキスト 3 は、小犬を連れて家に帰ってきてからの小犬の様子をあらためて語ったものである。

あらすじ

飼っている小犬を連れて私は夫と山へ山菜を採りに行った。小犬が走りまわって山菜を踏みつけるので、私が怒ると小犬はどこかへ行ってしまった。しばらくすると、熊がほえる声が聞こえてきて小犬のことが心配になり、私は犬の名（チビ）を呼んだが姿はない。車に戻ると、小犬が車とタイヤの間に身を隠して震えていたので、引っ張り出して私のふところに入れて帰った。小犬が生きていて嬉しかったが、私も小犬と一緒に震えたり泣いたりした。家に帰っても小犬は元気がなく、本当にかわいそうであった。

3.1.1 テキスト 1

採録日：2014 年 8 月 31 日

テキスト収録時間：5 分 45 秒

補足：テキスト 1 は調査時に小犬との思い出をアイヌ語で語っていただいたものである。そのため、言い直しなども含めて可能な限り録音どおりに書き起こしている。

- (1) inu dake oite ikuno kawai soo dakaratte, watasira derutte yueba nakunda
犬だけ置いていくのかわいそうだからって わたしら出るってゆえば鳴くんだ
犬だけ家に置いていくのはかわいそうで、私たちが出かけようすると犬が鳴く。
- (2) ano, toosan to wasi to deruttara moo uti karappo naru kara nakunda wa
あの 父さんとわしと出るったらもう うち空っぽなるから鳴くんだわ
夫と私が出かけるとなると家から人がいなくなるので犬が鳴く。
- (3) de, hanasite oitara abunai to omou kara, tunaide oku syo
で 放しておいたら危ないと思うから 繋いでおくしょ
犬を外に放しておくのも危険に思うので繋いでおく。

- (4) dakara kawai soode, sitara turete ikukatte yuu koto de kondo turete ittano sa
 だからかわいそうで したら連れていくかってゆうことで こんど連れて行ったのさ
 それがかわいそうで、それなら犬も連れていくかということで連れていった。
- (5) tura wa k=arpa awa kim ta pirka kina an wa
 連れろ て 1SG.S=行く て 山 に 良い 山菜 いる/ある て
 私が犬を連れていったら、山に良い山菜があつて⁵
- (6) oro ta mono'a wa kina kar kor k=an akusu
 そこ に 座る て 山菜 採る て 1SG.S=いる/ある と
 そこに座って山菜を採っていると
- (7) ne seta, hazimete, ano, kim ta arpa wa oyakoyak un hoyupu kor
 その犬 初めて あの 山 に 行く て あちこち へ 走る て
yorokonde da ne
 喜んでだね
 その犬は、山に行くのが初めてなのであちこち走りまわって喜んで
- (8) de, ni, san-pun doko sa ka itte modotte kite wa wasi ga okoru ka okonnai ka ano, miru no ni
 で 2 3 分どこさか行って戻ってきては わしが怒るか怒んないか あの 見るのに
 二、三分どこかへ行っては戻ってきて、私が怒るか怒らないのかうかがうために
- (9) wasi no kao mite mite sosite mada waki sa,
 わしの顔見てみて そしてまだわきさ
 私の顔を見ては、またわきのほうへ（行って）
- (10) okoranai to omoeba mata hasirunda wa
 怒らないと思えば また走るんだわ
 私が怒らないと思えばまた走りまわる。
- (11) soo siteru uti, watasi no toroo to omotta kina
 そうしてるうち わたしの採ろうと思った 山菜
 そうしているうちに私が採ろうと思っていた山菜は
- (12) sukkari otetterke site wen wa, [...] ⁶
 すっかり 踏みつける して 悪い て
 すっかり犬が踏みつけて悪くなってしまつて
- (13) kina ku=kar kor k=an wa
 山菜 1SG.A=採る て 1SG.S=いる/ある て
 私が山菜を採っていて

⁵ 吉村氏によると「平取のちょっと奥、沢を二つ越えたところ」にキトビロ（ギョウジャニンニク）を採りに行ったときの思い出とのことである。

⁶ ここからは日本語のみで思い出が詳細に語られた。また、犬から猫の思い出に話題が移り、これも日本語のみで語れた。日本語のみの談話は 34 分 30 秒ほど続き、一通りうかがったところであらためて犬の話をアイヌ語で語っていただくようお願いし、テキストに続く。

- (14)ku=kor seta ku=kor.. ku=kar kina otetterke wa
 1SG.A=持つ 犬 # 1SG.A=採る 山菜 踏みつける て
 私の犬が私の採る山菜を踏みつけるので
- (15)ku=iruska kor k=an akusu oyak un arpa wa
 1SG.S=怒る て 1SG.S=いる/ある と よそ へ 行く て
 私が怒っていると犬はよそへ行って
- (16)hempara ka an kor
 いつ か いる/ある と
 しばらく経つと⁷
- (17)kamuy hotuypa nanoka cis nanoka k.. ku=nu wa ku=kimatek
 熊 大声で叫ぶ なのか 泣く なのか # 1SG.A=聞く て 1SG.S=驚く
 熊が大声で叫んでいるのかないているのか、私はそれを聞いてびっくりした。
- (18)“ku=kor pon seta!” sekor ku=yaynu kor
 1SG.A=持つ 小さい 犬 QUOT 1SG.S=思う て
 「私の小犬！」と思って
- (19)nani ku=hopuni wa “tibi! tibi!” sekor ku=hotuyekar yakka oar isam
 すぐ 1SG.S=起きる て 犬の名 QUOT 1SG.A=呼ぶ ても まったく いない
 すぐに立ち上がって「チビー！チビー！」と私は呼んだけれど、どこにもいない。
- (20)oro wa kuruma anu uske un k=arpa akusu kuruma ni mo isam
 そこ から 車 置く 場所 へ 1SG.S=行く と 車にも いない
 それから車を置いた場所へ行ったところ、車にも（犬は）いなかった。
- (21)sonno kamuy ekupa wa arpa siri ne nankor sekor ku=yaynu kor
 本当に 熊 くわえる て 行く VIS.EV COP だろう QUOT 1SG.S=思う て
 本当に熊が犬をくわえていったんだろうと私は思って
- (22)ku=cis kor kuruma or un ku=nukar korka a.. an hi ta
 1SG.S=泣く て 車 ところ へ 1SG.A=見る けれど # いる/ある NMLZ に
 私は泣きながら車を見ていたときに
- (23)a=kor po.. kotan oro wa hitokazoku, kuruma o wa
 1PL.A=持つ # 村 そこ から 一家族 車 乗る て
 私たちの村から一家族、車に乗って
- (24)na kina kar kor.. kusu ek kuruma an wa
 まだ 山菜 採る # ので 来る 車 いる/ある て
 山菜を採りに来た車があつて
- (25)“pon seta eci=nukar somo ki?” sekor ku=hawean akusu
 小さい 犬 2PL.A=見る NEG する QUOT 1SG.S=言う と
 「あなたがた、小さい犬を見なかったかい？」と私が言う

⁷ 「hempara ka an kor (<hempara ka いつか、an kor になると)」という表現について、後日、吉村氏に意味を確認したところ「しばらく経つと」とのことであった。

- (26) “*obasan no kuruma no taiya mireba indenai ka*” sekor hawean wa nukar akusu
 おばさんの車のタイヤ見ればいんでないか QUOT 言う て 見る と
 「おばさんの車のタイヤを見ればいんでないか」と言うので見ると
- (27) *kuruma to syatai no naka ni.. kuruma ni dakasatta mitaina katati de*
 車と車体の中に 車に抱かされたみたいなかたちで
 (犬が) タイヤと車体の間で小さくまるまって⁸
- (28) nuy.. yaynuyna kor an wa
 # 身を隠す て いる/ある て
 身を隠して
- (29) is.. unto..., *ikiterutte nantake na* (K: シクス?)
 # うんと 生きてるってなんだけな (K: 生きる?)
 「生きている」ってアイヌ語で何ていったっけな (K: シクス?)
- (30) siknu kor an siri ne wa k=eyaykopuntek korka
 生きる て いる/ある VIS.EV COP て 1SG.A=喜ぶ けれど
 (犬が) 生きていたので私は喜んだけれど
- (31) ne *taiya* oro wa ne seta etaye wa
 その タイヤ そこ から その 犬 引っ張る て
 そのタイヤのところからその犬を引っ張って
- (32) k=upsotor-o⁹ omare akusu earkinne tususke kor an wa
 1.(A)=ふところ-POSS 入れる と 本当に 恐怖で震える て いる/ある て
 私のふところに犬を入れると本当に恐怖で震えていて
- (33) turano kani ka tususke yakka siknu wa an wa, [...] ¹⁰
 一緒に 1SG.PRON も 震える でも 生きる て いる/ある て
 私と一緒に震えたけれど、(犬が) 生きていて
- (34) siknu wa k=eyaykopuntek korka
 生きる て 1SG.A=喜ぶ けれど
 (犬が) 生きていて私は喜んだけれど

⁸ どのような様子かを後に確認したところ、小犬が身を隠すように小さく丸まっていたとのことだったので、日本語訳に反映させた。

⁹ 後日確認したところ「k=upsor-o (私のふところ)」の言い誤りとのこと。

¹⁰ 広報を配りに来た方への対応のため 18 秒ほど中断して再開した。

- (35) earkinne tususke kor an siri ku=nu.. ku=nu kor¹¹
 本当に 震えて て いる/ある VIS.EV # 1SG.A=聞く と
 心の芯から恐怖で震えているのを感じて
- (36) kani ka turano ku=tususke¹² ka ki ku=cis ka ki
 1SG.PRON も一緒に 1SG.S=震える もする 1SG.S=泣くもする
 私も一緒になって震えたり泣いたりした。
- (37) siknu wa e=an wa sonno k=eyaykopuntek korka
 生きる て 2SG.S=いる/ある て 本当に 1SG.A=喜ぶ けれど
 お前が生きていて本当に嬉しいけれど
- (38) na ne seta tususke siri ku=nu kor
 まだ その 犬 震える VIS.EV 1SG.A=きく て
 まだその犬が恐怖で震えているのを感じて
- (39) po hene kani ka turano tususke wa
 なおも 1SG.PRON も一緒に 震える て
 なおいっそう私も一緒に震えて
- (40) oro wa nepki ka, nepki ka oke.. osura wa
 そこ から 仕事 も 仕事 も # 投げる て
 それから山菜採りの作業もほおって
- (41) kani, cise or un ku=hosipi
 1SG.PRON 家 ところ へ 1SG.S=帰る
 私は家に帰った。
- (42) kuneywa ne wa yakka ene an ikokatun an wa sonno
 朝 なる て でも こう いる/ある 様子 いる/ある て 本当に
 朝になってもこういう様子であって本当に (たまげた)
- (43) tamagetattyuu koto nante yuu ka wakannai
 たまげたっちゅうこと何てゆうかわかんない
 「たまげた」ということをアイヌ語で何というかわからない。

¹¹ 日本語の語りでは「恐怖で震えているのをみて」とのことだったので、念のため「ku=nu」(1SG.A=聞く)ではなく「ku=nukar」(1SG.A=見る)ではないか吉村氏に確認したところ、犬を自分のふところに入れている状態で直接目でみて震えている様子を捉えているのではなく、ふところに抱いて触れて、心と心でその様子を捉えているので、この場合は「ku=nu (聞く)」で間違いないとのことであった。田村 (1996 : 236) は、「inu」(自動詞「聞く」)の項目で、「... wa inu」(<wa て、inu 聞く)の補助動詞の用法 (いわゆる、決着留保のテミル形)について次のように記述している。「視覚は含まず、聴覚、触覚、味覚、嗅覚によること、また心の中の考えや思い、感じなどについて言う。視覚に関することについては、inuではなく inkarを使う」(関連する箇所に筆者が下線を加筆)。ここでの他動詞「nu」(聞く)の用法は、これと共通するものと考えられる。

¹² はっきりとした [kutusuke] という発音ではなく [kutus:ke] のような発音であった。

3.1.2 テキスト 2

採録日：2014 年 9 月 6 日

補足：テキスト 2 は、テキスト 1 の書き起こしを吉村氏に手渡して確認する中で、吉村氏がテキスト 1 を読み上げつつ、テキスト 1 で言い誤った箇所や日本語で語った箇所などをアイヌ語で語りなおしたり、より詳しく語りを追加したりしたものである。テキスト 1 を筆者が吉村氏とともに更新したテキストであり、新たに通して語られたものではない。テキスト 1 をもとに吉村氏が修正／追加して語った箇所を網かけで示す。

- (1) pon seta ku=tura wa k=arpa awa kim ta pirka kina an wa
小さい 犬 1SG.A=連れる て 1SG.S=行くとら 山 に 良い 山菜 いる/ある て
私が小犬を連れていったら、山に良い山菜があつて
- (2) oro ta mono'a wa kina kar kor k=an akusu
そこ で 座る て 山菜 採る て 1SG.S=いる/ある と
そこに座つて山菜を採つてゐると
- (3) ku=kor pon seta hazimete kim ta arpa wa oyakoyak un
1SG.A=持つ 小さい 犬 初めて 山 に 行く て あちこち へ
hoyupu kor sinot wa
走る て 遊ぶ て
私の小犬は山に初めて行つたのであちこち走りまわつて遊んでゐて
- (4) kina ku=kar kor k=an wa
山菜 1SG.A=採る て 1SG.S=いる/ある て
私が山菜を採つてゐて
- (5) ku=kor seta ku=kar kina otetterke wa
1SG.A=持つ 犬 1SG.A=採る 山菜 踏みつける て
私の犬が私の採る山菜を踏みつけるので
- (6) ku=iruska kor k=an akusu oyak un arpa wa
1SG.S=怒る て 1SG.S=いる/ある と よそ へ 行く て
私が怒つてゐると犬はよそへ行つて
- (7) hembra ka an kor
いつ か いる/ある と
しばらく経つと
- (8) kamuy wose haw-e ku=nu wa ku=kimatek
熊 吠える 声-POSS 1SG.A=聞く て 1SG.S=驚く
熊の吠える声を私は聞いてびっくりした。
- (9) “ku=kor pon seta!” sekor ku=yaynu kor
1SG.A=持つ 小さい 犬 QUOT 1SG.S=思う て
「私の小犬！」と思つて

- (10) nani ku=hopuni wa
 すぐ 1SG.S=起きる て
 すぐに立ち上がって
- (11) oro wa ku=hoku-hu samake ta k=arpa wa¹³
 そこ から 1.(A)=夫-POSS そば に 1SG.S=行く て
 そして、私は夫のそばに行って
- (12) “tane kamuy hotuypa haw-e e=nu?” sekor ku=hawean akusu
 今 熊 叫ぶ 声-POSS 2SG.A=聞く QUOT 1SG.S=言う と
 「いま熊のほえる声、聞いたかい？」と私が言う
- (13) “k=erampewtek, somo ku=nu wa” sekor hawean
 1SG.A=わからない NEG 1SG.A=聞く FP QUOT 言う
 「わからなかった、聞いてないよ」と(夫が)言った。
- (14) oro wa “tibi! tibi!” sekor ku=hotuyekar yakka oar isam
 そこ から 犬の名 QUOT 1SG.A=呼ぶ ても まったく いない
 それから「チビー！チビー！」と私は呼んだけれど、どこにもいない。
- (15) oro wa kuruma anu uske un k=arpa akusu
 そこ から 車 置く 場所 へ 1SG.S=行くと
 kuruma or ta ka isam
 車 ところ に も いない
 それから車を置いた場所へ行ったところ、車にも(犬は)いなかった。
- (16) sonno kamuy ekupa wa arpa siri ne nankor sekor ku=yaynu kor
 本当に 熊 くわえる て 行く VIS.EV COP だろう QUOT 1SG.S=思う て
 本当に熊が犬をくわえていったんだろうと私は思って
- (17) ku=cis kor kuruma or un arpa wa ku=nukar yakka
 1SG.S=泣く て 車 ところ へ 行く て 1SG.A=見る けれど
 kuruma or ta ka isam
 車 ところ に も いない
 私は泣きながら車のところへ行ってみたけれど、車のところにもいなかった。
- (18) a=kor kotan oro wa hitokazoku kuruma o wa ek wa
 1PL.A=持つ 村 そこ から 一家族 車 乗る て 来る て
 私たちの村から一家族、車に乗ってきて
- (19) na kina kar kusu ek kuruma an wa
 まだ 山菜 採る ので 来る 車 いる/ある て
 山菜を採りに来た車があつて

¹³ テキスト 1 を読み上げながら確認している際に、テキスト 1 で詳細に語れなかった場面を追加で語ってくださった。

- (20) “pon seta eci=nukar somo ki?” sekor ku=hawean akusu
 小さい 犬 2PL.A=見る NEG する QUOT 1SG.S=言う と
 「あなたがた、小さい犬を見なかったかい？」と私が言う と
- (21) “*obasan no kuruma no taiya* nukar yakun?”¹⁴ sekor hawean wa ku=nukar wa akusu
 おばさんの車のタイヤ 見る たら QUOT 言う て 1SG.A=見る て と
 「おばさんの車のタイヤを見たらば？」と言うので見てみると
- (22) *kuruma to taiya no aida ni dakasatta mitaina katati de*
 車とタイヤの間に抱かされたみたいなかたちで
 (犬が) 車とタイヤの間で小さくまるまって
- (23) yaynuyna kor an wa
 身を隠す て いる/ある て
 身を隠して
- (24) siknu kor an siri ne wa k=eyaykopuntek korka
 生きる て いる/ある VIS.EV COP て 1SG.A=喜ぶ けれど
 (犬が) 生きていたので私は喜んだけれど
- (25) ku=hoku-hu ne seta sanke kusu etaye yakka wen¹⁵
 1.(A)=夫-POSS その 犬 出す ため 引っ張る ても だめだ
 私の夫がその犬を(車とタイヤの間から)出そうと引っ張ってもだめだった。
- (26) ne *taiya* oro wa ne seta etaye wa
 その タイヤ そこ から その 犬 引っ張る て
 そのタイヤのところからその犬を引っ張って
- (27) kani ne seta ku=kisma wa etaye akusu
 1SG.PRON その 犬 1SG.A=掴む て 引っ張る と
 私がその犬をつかんで引っ張ると
- (28) ne *kuruma* oro wa soyne
 その 車 そこ から 外に出る
 その車から(犬が)外に出た。
- (29) oro wa nani k=upsor-o omare akusu
 そこ から すぐ 1.(A)=ふところ-POSS 入れる と
 earkinne tususke kor an wa
 本当に 恐怖で震える て いる/ある て
 そしてすぐに私のふところに犬を入れると心の芯から恐怖で震えていて

¹⁴ テキスト 1 で日本語で語られている箇所についてアイヌ語で語りなおせるか吉村氏に確認したところ、
 「おばさんの車のタイヤ、これアイヌ語で言えないわ」とのことだった。

¹⁵ テキスト 1 を読み上げながら確認している際に、テキスト 1 で詳細に語れなかった場面を追加で語って
 くださった。

- (30) turano kani ka tususke, kani ka seta tura tususke wa
 一緒に 1SG.PRON も 震える 1SG.PRON も 犬 一緒に 震える て
 yakka siknu wa an wa
 でも 生きる て いる/ある て
 私も犬と一緒に震えて、それでも(犬が)生きていて
- (31) siknu wa k=eyaykopuntek korka
 生きる て 1SG.A=喜ぶ けれど
 生きていて喜んだけれど
- (32) earkinne tususke kor an siri ku=nu kor
 本当に 震えて て いる/ある VIS.EV 1SG.A=聞く と
 心の芯から恐怖で震えているのを感じて
- (33) kani ka turano tususke¹⁶ ka ki, ku=cis ka ki
 1SG.PRON も 一緒に 震える も する 1SG.S=泣く も する
 私と一緒に震えたり泣いたりした。
- (34) siknu wa e=an wa sonno k=eyaykopuntek korka
 生きる て 2SG.S=いる/ある て 本当に 1SG.A=喜ぶ けれど
 お前が生きていて本当に嬉しいけれど
- (35) na ne seta tususke siri ku=nu kor
 まだ その 犬 震える VIS.EV 1SG.A=きく て
 まだその犬が恐怖で震えているのを感じて
- (36) po hene kani ka turano tususke wa
 なお も 1SG.PRON も 一緒に 震える て
 なおいっそう私も一緒に震えて
- (37) “na kim ta hosipi wa kina kar rusuy?” sekor ku=hoku-hu hawean korka¹⁷
 まだ 山 に 帰る て 山菜 採る DESID QUOT 1.(A)=夫-POSS 言う けれど
 「山にもどってまだ山菜採りたいかい？」と夫が言ったけど
- (38) kina ka nep ka ku=kor rusuy ka somo ki
 山菜 も 何 か 1SG.A=持つ DESID も NEG する
 山菜も何もほしくない。
- (39) ku=kor pon seta siknu hi patek k=eyaykopuntek
 1SG.A=持つ 小さい 犬 生きる NMLZ だけ 1SG.A=喜ぶ
 私の小犬が生きていることだけが嬉しかった。
- (40) “nepki ka osura wa cise or un ku=hosipi rusuy” sekor ku=hawean akusu
 仕事 も 投げる て 家 ところ へ 1SG.S=帰る DESID QUOT 1SG.S=言う と
 「山菜採りの作業をやめて家に帰りたい」と私が言う と

¹⁶ テキスト 1 では一人称単数主語の人称接辞を伴った「ku=tususke」であったが、書き起こしを提示したところ「ク(一人称単数主語の人称接辞)は要らない」とのことだった。

¹⁷ テキスト 1 を読み上げながら確認している際に、テキスト 1 のままでは感情が出ないとのことで、詳細に語れなかった場面を追加で語ってくださった。

- (41) “yakun hosipi=an ro” sekor ku=hoku-hu hawean wa
 なら 帰る=1PL.S.INCL FP QUOT 1.(A)=夫-POSS 言う て
 「それなら帰ろう」と夫が言って
- (42) ne seta k=upsor-o or ta tususke kor kotuk wa
 その 犬 1.(A)=ふところ-POSS ところ に 震える て くつつく て
 その犬が私のふところで震えてくつついていて
- (43) nan-u hu ka ku=kor amip ani nuyna wa
 顔-POSS も 1SG.A=持つ 着物 で 隠す て
 顔も私の着物で隠して
- (44) kim ta¹⁸ nukar-e ka ewen wa sapa-ha kat-u hu
 山 に 見る-CAUS も 悪くなる て 頭-POSS 恰好-POSS
 opitta ne seta ku=nuyna wa
 すべて その 犬 1SG.A=隠す て
 山を見せても悪くなるので、その犬の頭、恰好すべてを私が隠して
- (45) easir k=upsor-o or ta yakka tususke kor an
 本当に 1.(A)=ふところ-POSS ところ で でも 震える て いる/ある
 それでも本当に私のふところで震えている。
- (46) itak pe ne yakun makanak cis kor itak hawe ne an pe
 話す NMLZ COP なら どう 泣く と 話す NMLZ COP いる/ある NMLZ
 an sekor ku=yaynu kor
 いる/ある QUOT 1SG.S=思う て
 (犬が) 話すものならどんなにか泣いて話すものと私は思っ
- (47) kani ka ku=cis rusuy anki yaynu
 1SG.PRON も 1SG.S=泣く DESID しそうに 思う
 私も泣きそうになった。
- (48) oro wa kuruma o wa kim ta oro wa hanarete
 そこ から 車 乗る て 山 に そこ から 離れて
 maciya or un ahun wa
 市街 ところ へ 入る て
 それから車に乗って山から離れて、市街地に入って

¹⁸ 「kim ta」(<kim 山、ta に)は「山に、山で」という後置詞句であるが、本テキストにおいて吉村氏は「山」という名詞相当の語として用いている。この他に「nupuri」という山を表わす語も用いているが、使い分けについては確認できていない。また、同様に「soy ta」(<soy 外、ta に)「外に、外で」という後置詞句もテキスト2の(49)(51)(57)で見られるように「外」という名詞相当の語として用いられている。吉村氏の位置名詞と格助詞の組み合わせ単位の用法については今後も用例から分析を進めたい。

- (49) “tane kim ta isam pe ne na soy ta nukar yan” sekor
 もう 山 に いない NMLZ COP FP 外 に 見る IMP.FP QUOT
 ku=hawean kor sapa-ha oro wa amip uk kor
 1SG.S=言う て 頭-POSS そこ から 着物 取る て
 「もう山にいないんだから外を見なさい」と私が言って（犬の）頭から着物を取ると
- (50) nao tususke kor an wa ponno ponno kor maciya or un
 なお 震える て いる/ある て 少し 少し ながら 市街 ところ へ
 ku=nukar-e akusu
 1SG.A=見る-CAUS と
 なおも震えているのでちょっとずつ市街地を私が見せると
- (51) kim ta somo ne sekor yaynu p ne korka ponno patek soy ta
 山 に NEG COP QUOT 思う NMLZ COP けれど 少し だけ 外 に
 nukar kor an
 見る て いる/ある
 山ではないと思ったのだろうけれど、少しだけ外のほうを見ている。
- (52) itak pe ne yakun makanak cis kor yaykewkor pe ne sekor
 話す NMLZ COP なら どう 泣く て つらい目にあった NMLZ COP QUOT
 ku=yaynu kor
 1SG.S=思う て
 （犬が）話すものなら、どんなにか泣いてつらい目にあったものだとは私にとって
- (53) seta ka cis ka.. cis korka kani ka ku=cis
 犬 も 泣く # 泣く けれど 1SG.PRON も 1SG.S=泣く
 犬も泣いたけれど私も泣いた。
- (54) sonno ku=cis ka ki siknu wa an wa k=eyaykopuntek
 本当に 1SG.S=泣く も する 生きる て いる/ある て 1SG.A=喜ぶ
 ka ki korka
 も する けれど
 本当に泣いたり、（犬が）生きていて喜んだりもしたけれど
- (55) zutto, maciya or un ka oro wa nan-uhu sanke wa ek akusu
 ずっと 市街 ところ へ も そこ から 顔-PRO 出す て 来る と
 ずっと市街へもそこから顔を出してくると
- (56) nupuri nukar ka isam pe ne kusu pirka sekor yaynu kor yaynu ruwe ka
 山 見る も ない NMLZ COP ので 良い QUOT 思う て 思う INFR.EV も
 山を見ることもなくなったので大丈夫だと思ったのか
- (57) soy ta nukar kor kuruma o wa k=ek
 外 に 見る て 車 乗る て 1SG.S=来る
 外を見ながら車に乗ってきた。

- (58) cise or ta ek a.. ek wa
 家 ところ に 来る # 来る て
 家に来て
- (59) seta ne kusu sanke yakun soy ta sinot suru ka sekor ku=yaynu kor
 犬 COP ので 出す なら 外 で 遊ぶ するか QUOT 1SG.S=思う て
sanke yakka
 出す でも
 犬なので（車から）出したら外で遊ぶかと思って出したけれども
- (60) soy ta ka somo, soyne kopan
 外 で も NEG 外に出る 拒む
 外にも出るのをいやがった。
- (61) oro wa cise onnayke ta anu akusu
 そこ から 家 中 に 置く と
 それから家の中におろすと
- (62) nep ka a=e-re yakun kimotiga otitukukato omotte
 何 か 1PL.A=食べる-CAUS なら 気持ちが落ち着くかと思って
 何か食べさせたら気持ちが落ち着くかと思って
- (63) aep ponno ku=kor-e yakka somo e
 食べ物 少し 1SG.A=持つ-CAUS ても NEG 食べる
 食べ物を少し犬に与えたけれども食べなかった。
- (64) oro wa, oro ta hokke kor an wa
 そこ から そこ で 寝る て いる/ある て
 それから、そこで寝ているので
- (65) sonno seta patek ka somo ki ku=hoku-hu ka hok.. hokke,
 本当に 犬 ばかり も NEG する 1.(A)=夫-POSS も # 寝る
kani ka ku=hokke rusuy korka
 1SG.PRON も 1SG.S=寝る DESID けれど
 本当に犬だけでなく私の夫も私も寝たかったけれど
- (66) ne seta makanak iki yakun wen sekor ku=yaynu kor
 その 犬 どう する なら 悪い QUOT 1SG.S=思う て
 その犬がどうかしたらまずいと思って
- (67) seta or un nukar kor k=an akusu
 犬 ところ へ 見る て 1SG.S=いる/ある と
 犬を見ていると
- (68) kuneywa ne yakka onuman pakno hokke wa hopuni ka somo ki
 朝 なる でも 夕方 まで 寝る て 起きる も NEG する
 朝になっても夕方まで横になって起きもしない。

- (69) soy ta seta ha.. haw-ehe a=nu yakka
 外 で 犬 # 声-POSS 1PL.A=聞く ても
 外で犬の声を聞いても¹⁹
- (70) soyne ka somo ki no onuman pakno ne seta hokke wa
 外に出る も NEG する て 夕方 まで その 犬 寝る て
 外に出ないで夕方までその犬は横になっていて
- (71) hopuni ka somo ki, soyne ka somo ki
 起きる も NEG する 外に出る も NEG する
 起き上りも外に出もしない。
- (72) sirkunne rusuy²⁰ kor an wa aep ku=kor wa kor-e yakka
 夜になる DESID て いる/ある て 食べ物 1SG.A=持つ て 持つ-CAUS ても
 日が暮れそうなので、私は食べ物をもって犬に与えたけれど
- (73) ne aep ka na e ka nukuri noyne an siri
 その 食べ物 も まだ 食べる も できない らしい いる/ある VIS.EV
 ku=nukar kor
 1SG.A=見る て
 その食べ物もまだ食べられないようであるのをみて
- (74) itak pe ne yakun makanak cis kor usa oka itak
 話す NMLZ COP なら どう 泣く て いろいろ いる/ある 話
 ki p ne wa.., ne p.. pe ne ya sekor ku=yaynu kor
 する NMLZ COP て COP NMLZ NMLZ COP Q.FP QUOT 1SG.S=思う て
 (犬が) 話すのなら、どんなに泣いていろんな話をするものであるかと思って
- (75) seta sekor ku=yaynu ka somo ki no ku=kor pon hekaci neno
 犬 QUOT 1SG.S=思う も NEG する て 1SG.A=持つ 小さい 男の子 同じく
 ku=yaynu wa sonno..
 1SG.S=思う て 本当に
 犬と思わないで私の子供のように思って、本当に
- (76) kuneywa ne wa yakka ene an ikokatun an wa sonno
 朝 なる て でも こう いる/ある 様子 いる/ある て 本当に
 iyokunure
 たまげる
 朝になってもこういう様子であったので本当にたまげた。

¹⁹ 文脈が合わないので言い誤りの可能性がある。近所の犬の鳴き声がきこえてもということかもしれないが、後日の調査では確認できていない。

²⁰ rusuy は願望を表わす助動詞であるが、0 項動詞 sirkunne (夜になる) は自然現象であり本来は願望者が想定されない。筆者が吉村氏から得ている他の表現として「*apto ruy rusuy noyne an* (雨が降りそうだ) (< *apto* 雨、*ruy* 降る、*rusuy* たい、*noyne an* ようだ <*lit.* 雨が降りたいようだ) という例もあることから、ここでは近い将来の推量の用法のひとつと解釈して暫定的に日本語訳をした。田村 (1996 : 592) の「*rusuy*」(助動詞) の項目にある「(2) ...しそうである」の用法に近いものとするが、詳しい分析は今後の課題としたい。

- (77) kani ka ku=kimatek ka ki, ku=cis ka ki,
 1SG.PRON も 1SG.S=驚く も する 1SG.S=泣く も する
 k=eyaykopuntek ka ki
 1SG.A=喜ぶ も する
 私も驚いたり泣いたり喜んだりした。
- (78) *koo yuu hanasi o kitami monbetu itte ainugo-taikai, benron-taikai or ta*
 こうゆう話を北見紋別行ってアイヌ語大会 弁論大会 ところ で
 こういう話を北見で開かれたアイヌ語弁論大会で
- (79) “nep ka ye” sekor a=en=ye.. pe ne kusu
 何 か 言う QUOT 4.A=1SG.O=言う NMLZ COP ので
 「何か話なさい」と言われたので
- (80) oro ta ne seta oruspe ku=ye
 そこ で その 犬 話 1SG.A=言う
 そこでその犬の話を話したよ。²¹

3.1.3 テキスト 3

採録日：2014 年 10 月 11 日

テキスト収録時間：2 分 3 秒

補足：テキスト 3 は、山で熊と行き合って震える小犬を家に連れて帰ってからの思い出を中心に通しで語ったものである。先行するテキスト 1、2 をはじめ小犬の思い出にかんするアイヌ語のテキストなどは提示していない。

- (1) k=upsor-o omare wa cise or un hosipi
 1.(A)=ふところ-POSS 入れる て 家 ところ へ 帰る
 (犬を) 私のふところに入れて家に帰った。
- (2) oyakoyak un ek hi ta nukar-e kor hosipi akusu
 あちこち へ くる NMLZ に 見る-CAUS て 帰る と
 来るときにあちこち見せながら帰ると
- (3) ponno patek ka uru'uruk siri *otituite*
 少し だけ も ぶるぶる震える VIS.EV 落ち着いて
 少しでもぶるぶる震える様子は落ち着いて
- (4) cise or ta ahun yakka sinot ka ipe ka somo ki no
 家 ところ に 入る ても 遊ぶ も 食べる も NEG する て
 onuman pakno hokke kor an
 夕方 まで 寝る て いる/ある
 家に入っても遊びも食べもしないで夕方まで横になっていた。

²¹ 1998 年 2 月に北見市で開催された第 1 回アイヌ語弁論大会で吉村氏が語った「クコロ ウパシクマ (若い人に伝える話)」のことを指している。

- (5) utari neno itak.. itak dekiru mono nara neun ne ye..
 人々 同じく # 話す できるものなら どう COP #
 ye kusu ne nankor ka
 言うため COP だろう か
 人々のように話すことができるものならどうにかして話すだろうか。
- (6) seta ne kusu itak ka eaykap korka ikokatun siri nukar kor
 犬 COP ので 話す も でいない けれど 様子 VIS.EV 見る て
 犬なので話すこともできないけれど、その様子を見て
- (7) yu.. syabetteru yoo ni omotte, nantomo ienai kanasii omoi simasita [...] ²²
 # しゃべってるように思って なんとも言えない悲しい思いをしました
 話しているように思えてなんとも言えない悲しい思いをした。
- (8) kuneywa ka ipe ka somo ki no soyne p ne a p,
 朝 も 食べる も NEG する て 外に出る NMLZ COP PERF NMLZ
 朝も食べないで外に出ただけけれど
- (9) wakusu cise or un hosipi hi ta
 だから 家 ところ へ 帰る NMLZ に
 だから家に帰ったときに
- (10) nep ka a=e-re yakun sektor ku=yaynu wa
 何 か 1PL.A=食べる-CAUS なら QUOT 1SG.S=思う て
 何か犬に食べさせなくてはと思って
- (11) aep samake ta anu yakka ne aep ka e ka somo ki no
 食べ物 そば に 置く ても その 食べ物 も 食べる も NEG する て
 食べ物を犬のそばにおいても、その食べ物を食べもしないで
- (12) onuman pakno hokke kor an wa sonno inunukaski sektor ku=yaynu
 夕方 まで 寝る て いる/ある て 本当に かわいそう QUOT 1SG.S=思う
 夕方まで横になっていて、本当にかわいそうだったと思った。

3.2 犬の思い出 (2) : 犬を飼わなくなった理由

3.1.3 のテキスト 3 の語りを受けて、小犬のその後についてうかがうなかで得られたものである。

あらすじ

息子のように思っていた小犬だったが、近所の犬に噛まれて死んでしまった。犬をくれるという人もたくさんいたけれど、犬のために泣いているので断っている。

採録日 : 2014 年 10 月 11 日

テキスト収録時間 : 2 分 7 秒

²² ここで一息ついて 1 分 40 秒ほど雑談を挟んだ後、再開してテキストに続く。

- (1) seta sekor ka ku=yaynu ka somo ki korka
 犬 QUOT も 1SG.S=思う も NEG する けれど
 犬とも思わないけど
- (2) ku=po-ho neno ku=yaynu wa an seta ne kusu sonno,
 1.(A)=息子-POSS 同じく 1SG.S=思う て いる/ある 犬 COP ので 本当に
 私の息子のように思っていた犬だったので本当に
- (3) aw un seta tup an wa
 隣りにいる 犬 2 いる/ある て
 お隣の犬が2匹いて
- (4) ne seta ani kupapa sarete a=rayke sareta toki dara, sorekoso
 その 犬 によって 噛みつく されて 4.A=殺す されたときだら それこそ
 その犬に私の犬が噛みつかれて死なされたときは
- (5) ku=cis kor., yakka hopuni ka somo ki
 1SG.S=泣く て でも 起きる も NEG する
 私は泣いて、でも犬は起き上がらなかった。
- (6) oro wa seta anakne ku=kor rusuy korka korita mon desu kara, moo
 そこ から 犬 TOP 1SG.A=持つ DESID けれど 懲りたもんですから もう
 それから犬はほしいけれども、もう懲りたものだから
- (7) seta en=kor-e sekor ye kur poronno oka korka
 犬 1SG.O=持つ-CAUS QUOT 言う 人 たくさん いる/ある けれど
kotowatte, somo,
 断って NEG
 犬を私にくれるという人がたくさんいたけど断って
- (8) seta anakne., tane anakne seta ka isam
 犬 TOP 今 TOP 犬 も いない
 今は犬はいない。
- (9) en=kor-e sekor.. “eci=kor-e na” sekor a=ye kur
 1SG.O=持つ-CAUS QUOT 1SG.A+2SG.O=持つ-CAUS FP QUOT 4.A=言う 人
 a.. an korka
 # いる/ある けれど
 「あんたに犬をあげるよ」と言う人がいたけれど
- (10) “pirka pirka”, seta anak.. seta no tame ni ku=cis kor an pe
 良い 良い 犬 TOP 犬 のために 1SG.S=泣く て いる/ある NMLZ
 「大丈夫、大丈夫」、犬のために私は泣いているもの

(11)suy neno an yakun makanak ku=yaynu ka ki ka, somo²³

また 同じく いる/ある なら どう 1SG.S=思う も する も NEG

また同じようなことがあれば、私はどう思うだろう。

(12)“seta anakne pirka” sekor ku=hawean kor *kotowaru*

犬 TOP 良い QUOT 1SG.S=言う て 断る

「犬は大丈夫ですよ」と言って断る。

4. 付録

本稿で示した「犬の思い出」のテキストの音声資料を以下のサイトで公開する²⁴。また、本誌の前稿、岸本（2024）で示した「火の玉を見て気を失った話」のテキストの音声資料も同じく公開する。

資 料	アイヌ語鵡川方言テキスト (1) ²⁵
内 容	火の玉を見て気を失った話
アクセス	https://zenodo.org/records/14505707
資 料	アイヌ語鵡川方言テキスト (2)
内 容	犬の思い出
アクセス	https://zenodo.org/records/14507404

略号一覧

#：言い誤り、言い淀み／-：形態素境界／=：人称接辞境界／1：一人称／2：二人称／4：四人称／A：他動詞主格／(A)：所有者属格／CAUS：使役／COP：コピュラ動詞／DESID：希求／EXCL：除外／FP：終助詞／IMP：命令／INCL：包括／INFR.EV：推測証拠性／K：調査者（岸本）／NEG：否定／NMLZ：名詞化辞／NONVIS.EV：非視覚感覚証拠性／O：目的格／PERF：完了／PL：複数／POSS：所属形／PRON：代名詞／Q：疑問／QUOT：引用／REP.EV：伝聞証拠性／S：自動詞主格／SG：単数／TOP：主題化／VIS.EV：視覚証拠性

謝辞

長年にわたり調査にご協力いただいた吉村冬子氏ならびにご家族の皆様にご心から感謝申し上げます。また、本稿の査読者にも感謝申し上げます。

²³ ここでの「somo」の用法は明らかではないが、単独で [somo:] と長めに発話されている。これを含むテキスト 4 の (11) の日本語訳は暫定的なものである。

²⁴ オープンアクセスの研究データリポジトリである Zenodo (<https://zenodo.org/>) を利用する。

²⁵ 本誌の前稿、岸本（2024）のテキストの音声資料にかんする公開情報である。

参考文献

- アイヌ文化振興・研究推進機構（編）（1998）『アイヌ語弁論大会報告書』札幌：アイヌ文化振興・研究推進機構.
- 萱野茂（2002）『萱野茂のアイヌ語辞典 増補版』東京：三省堂.
- 岸本宜久（2024）「アイヌ語鵲川方言テキスト（1）：火の玉を見て気を失った話」『北方言語研究』（14）251-270.
- 田村すず子（1996）『アイヌ語沙流方言辞典』東京：草風館.
- 中川裕（1995）『アイヌ語千歳方言辞典』東京：草風館.
- 服部四郎（編）（1964）『アイヌ語方言辞典』東京：岩波書店.

Ainu Texts in Mukawa Dialect (2): Memories of a Dog

Yoshihisa KISHIMOTO
(Sapporo Gakuin University)

This collection comprises four texts featuring memories about a puppy as narrated by Ms. Fuyuko Yoshimura, a native speaker of the Mukawa dialect of Ainu. Text 1, collected on August 31, 2014, recounts her memories of the puppy as narrated in Ainu. Text 2, collected on September 6, 2014, records the author's consultation with Ms. Yoshimura regarding the Ainu language used in Text 1. During this session, Ms. Yoshimura corrected certain linguistic errors, provided Ainu versions of portions initially narrated in Japanese, and added more detailed descriptions. While Text 2 shares the same narrative content as Text 1, it is presented separately due to these modifications. Texts 3 and 4, both collected on October 11, 2014, present additional puppy-related memories. Text 3 revisits portions of the memories described in Texts 1 and 2, while Text 4 introduces entirely new memories.

All texts may be considered valuable resources for studying Ainu as a heritage language among generations of speakers whose first language is Japanese.

Synopsis (Texts 1, 2, and 3):

My husband and I took our little dog with us to the mountains to gather wild vegetables. The puppy kept running around trampling the vegetables, and when I got angry at him, he ran off somewhere. Later, hearing a bear's growl, I became worried and called out his name, but he was nowhere to be seen. When we returned to our car, we found him huddled under the car behind one of the wheels, trembling. I pulled him out and tucked him inside my jacket for the ride home. I was so relieved he was alive, but I found myself shaking and crying right along with him. Even after we got home, he still wasn't himself, which was heartbreaking to see.

Synopsis (Text 4):

I loved that dog as if he were my son, but then, one day, he died after being bitten by a neighbor's dog. Since then, many people have offered me another dog, but I still decline; the heartbreak of losing him was just too painful.

(きしもと・よしひさ kishi@sgu.ac.jp)